第６回ひらつか男女共同参画推進協議会　会議録

令和４年１２月１日（木）９時００分～１１時００分
平塚市庁舎本館７階７２０会議室（１）

出席委員　６人（辻委員、中津川委員、永嶋委員、石橋委員、安藤委員、大庭委員）
欠席委員　２人（長谷川委員、小池委員）
主 催 者　４人（新倉人権・男女共同参画課長、榮谷担当長、長谷川主査、加納主査）

１　開会
（１）欠席委員の確認
（２）資料の確認
（３）会議の公開について
（４）傍聴者希望について
（５）会長挨拶

２　第６回ひらつか男女共同参画推進協議会　　議事進行：会長
（事務局）ここから、議事進行は会長にお願いいたします。
（会長）第６回ひらつか男女共同参画推進協議会の議題に入ります。

（１）令和４年度男女共同参画に関する市民意識調査の結果概要について【資料１】
（会長）それでは、議題１「令和４年度男女共同参画に関する市民意識調査の結果概要について」、事務局から説明をお願いします。
（事務局）それでは、お手元に資料１を御用意ください。前回の協議会でも議題にあがりました市民意識調査について、今年の９月から１０月にかけて実施しましたのでその結果概要を報告します。こちらはあくまで概要版なので、調査結果が大まかに分かるものになります。細かいクロス集計などは本編に載せるので、この概要版には載せておりませんが、もう少し踏み込んで概要版にも載せた方がいいと思われるクロス集計などがあれば、御意見をいただきたいところです。
　では、１ページ目を御覧ください。１「調査の目的」ですが、男女共同参画に関する市民の意識と実態を把握するとともに、次期プランの策定に向けて基礎資料を得ることを目的として実施しました。２「調査方法」ですが、市内全域の満１８歳から７９歳の男女３，０００人を無作為抽出しました。３，０００件送付したうちの１０件は、宛先不明で届きませんでした。回答は１，３７０件あったのですが、そのうち２件は無記入だったので、有効回収数は１，３６８件となります。従って、有効回収率は実際に届いた２，９９０分の１，３６８で４５．８％となりました。続いて、３「設問項目」ですが、５つの分野、計１６問で構成されております。
　続いて、２ページ目を御覧ください。属性ですが、性別は、「女性」５６．８％、「男性」４２．９％、「その他」を選択された方は４名、割合にすると０．３％いらっしゃいました。続いて、年齢は、グラフの左から１０歳代、２０歳代と並んでおります。１０歳代から３０歳代は少ないのですが、４０歳代以降の年代は２割前後となっております。続いて、就業ですが、「有職者」６４．０％、「無職者」３２．２％、「学生」３．８％という割合になっております。続いて、結婚は「している」６８．３％、「離婚・死別した」１０．１％、「していない」２１．６％となっております。
　続いて、３ページ目、ここから設問に入りますが、問１６のうち、問８までを説明します。問１「次の分野について、男女の地位は平等になっていると思いますか。」という設問です。「家庭生活」、「学校教育の場」及び「地域活動」は「平等」が最も高くなっていますが、「職場」、「法律や制度上」及び「社会通念・慣習・しきたり」は「どちらかといえば男性優位」が最も高く、

「政治の場」は「男性優位」が５１．２％で最も高くなっております。また、「どちらかといえば女性優位」、「女性優位」は１％に満たない項目もあり、まだまだ市民の意識として、どの分野も女性優位と思っている方は極少数であることが分かります。

続いて、問２「「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。」という設問です。「そう思う」３．１％、「どちらかといえばそう思う」２３．３％が肯定的となります。一方、「どちらかといえばそう思わない」２８．８％、「そう思わない」４３．９％が否定的となります。「固定的な男女の役割分担意識の考え方に同感しない人の割合（全体）」を統計の項目にしていますが、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた７２．７％となり、前回調査から５ポイント上がりました。また、これについて１０歳代から２０歳代の若い世代に限りますと、８８．２％と前回調査から８ポイント上がりました。

続いて、問３「男女共同参画に関する次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。」という設問です。上のグラフが男女共同参画の推進に関する言葉です。「イクメン」８８．７％、「ジェンダー」８３．８％、「ワーク・ライフ・バランス」５０．８％、「イクボス」１７．８％、そして、今回新規で設問した「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」は１１．５％となりました。続いて、下のグラフが女性の人権に関する言葉です。「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）」８７．４％、「マタニティ・ハラスメント」７９．２％、「デートＤＶ」３３．８％、以下御覧のように続いております。また、「マタニティ・ハラスメントという言葉を知っている市民の割合」を統計の項目にしていますが、７９．２％と前回調査から３ポイント下がりました。

続いて、問４「次の項目について、費やしている時間は一日のうちどれくらいですか。」という設問です。まずは、仕事や学校のある日なので、有職者及び学生のみが対象となります。「仕事・学校」について、年代別にみますと３０歳代が８時間２７分と最も長く、就業別にみますと「正社員・正職員」が９時間００分と最も長くなっております。続いて、「通勤・通学」は、就業別にみますと「学生」が１時間４２分と最も長くなっております。続いて、「家事」について性別でみますと、「女性」２時間４６分、「男性」４１分と、女性の方が４倍程度長くなっております。続いて、「育児・子育て」について性別でみますと、「女性」４３分、「男性」１５分と、こちらも女性の方が３倍程度長くなっております。また、年代別にみますと、３０歳代が１時間４８分で最も長くなっております。以下、「介護・看護」、「地域の活動」、「睡眠」と続きます。また、「家事」、「育児・子育て」「介護・看護」及び「地域の活動」の４つの項目については、実施していない人もしくはそもそも該当しない人も含めた、全ての有効回答の平均値を記載しております。従って、極少数な値となっておりますが、報告書の本編には、実施している人のみの平均値も併せて記載する予定です。続いて、６ページ目が仕事や学校のない日です。「家事」について、性別でみますと、「女性」４時間１０分、「男性」１時間３２分と平日と同様に、女性の方が長くなっております。また、「睡眠」をみますと、どの属性においても平日と比較して長くなっております。また、「６歳未満の子どもを育てている夫婦世帯における夫の家事参加時間（平日）」をプランの指標としておりますが、１３３分と前回調査の１１６分から長くなりましたが、令和５年度目標の１７０分には達しませんでした。

続いて、問５「仕事と子育て・家庭生活を両立するために、行政や企業（職場）においてどのような取組が進めば良いと思いますか。」という設問です。まず、（１）行政ですが、「フルタイム勤務以外の多様な働き方にも対応する仕組の整備」が６４．４％、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他経済的補償の充実」が続きます。（２）企業（職場）ですが、項目毎に「定時退社の推奨」５７．３％、「有給休暇取得の奨励」７２．１％、「短時間勤務、在宅就業制度（テレワーク等）、フレックスタイム制度など、フルタイム勤務以外の多様な働き方の充実」５８．８％とそれぞれ最も高くなっております。

続いて、問６「あなたは、ワーク・ライフ・バランスを実現できていると思いますか。」という設問です。「できている」７．２％、「おおよそできている」４１．２％が実現できている旨の

回答です。「あまりできていない」２３．６％、「できていない」１３．６％が実現できていない旨の回答となります。「自身の希望するワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が実現している市民の割合」を統計の項目にしていますが、４８．５％と前回調査から１３ポイント上がりました。

続いて、問７「次の①～④について、あなたの家庭では主に誰が担っていますか。」という設問です。「家事」、「育児・子育て」及び「介護・看護」については、女性は「主に自分」、男性は「主に配偶者」が最も高くなっており、「地域の活動」は女性・男性ともに「主に自分」が最も高くなっております。

続いて、問８「次の①～④について、誰が担うのが望ましいと思いますか。」という設問です。「家事」、「育児・子育て」、「介護・看護」、「地域の活動」と全ての項目において、「夫婦が同じくらい分担」が女性・男性ともに最も高くなっております。問８までの説明は以上になります。

（会長）市民意識調査の結果概要について、問８まで事務局から説明がありましたが、御意見または感想などがありましたらお願いします。

（委員）問８までの結果概要をみる限り、男女共同参画の推進は概ね図られているように感じましたが、問３の「マタニティ・ハラスメント」の言葉の認知度は若干下がっているのが気になりました。近年、様々なハラスメントに関する言葉が作られており、他の言葉の方がメディア等で取り上げられている影響もあるのかなと感じました。

（会長）問４の指標「６歳未満の子どもを育てている夫婦世帯における夫の家事参加時間（平日）」は１３３分と、令和５年度の目標には達しなかったものの、前回からさらに伸びているのは良い傾向だと思います。

（委員）平日と休日で睡眠時間にだいぶ差があるなど、興味深いですね。

（委員）回答者の属性についてですが、女性が約５７％で男性が約４３％となっていますが、調査の対象者は女性と男性は同数ですか。

（事務局）調査の対象者は女性と男性同数です。前回調査も女性が約５８％、男性が約４２％と女性の方が多く回答していただきました。

（会長）有効回収率４５．８％は、想定以上に回答していただいた印象がありますが、何か工夫したことはあるのでしょうか。

（事務局）過去５回実施した調査と比較して、最も多くの回答をいただきました。工夫した点としましては、調査票の随所にかわいらしいイラストを取り入れて、親しみやすい印象を持っていただくことに努めました。また、電子申請システムによる回答も３００件程度あり、好調だったことが要因として挙げられます。

（委員）問７と問８の家事・育児などの担い手についての設問ですが、問８の望ましい担い手は女性・男性ともに「夫婦が同じくらい分担」が最も高くなっているのに対して、問７の実際に主に担っているのは、女性は「主に自分」、男性は「主に配偶者」が最も高くなっております。男女ともに、夫婦が同じくらい分担することが望ましいという理解はありながら、現実とは乖離している点が興味深いです。

（会長）問７で「夫婦が同じくらい分担」と回答した方について、細かくクロス集計すると性別でよる違いや年代毎の傾向などが見えてくると思います。

（委員）問６のワーク・ライフ・バランスについて、実現している市民の方が４８．５％と前回調査からだいぶ上がっていますね。

（事務局）問６は、前回調査から設問を変えました。前回は、「家庭」、「仕事」及び「地域・個人の生活」のうち、優先している項目と優先したい項目について設問して、両者が一致している人をワーク・ライフ・バランスが実現していると定義して集計しました。ですので、前回調査との比較は参考程度と理解していただければと思います。

（会長）続いて、問９から問１６まで事務局から説明をお願いします。

（事務局）資料１の１０ページ目をお開きください。ここからしばらくはドメスティック・バイオレン

スに関する設問が続きます。問９「次の①～⑭のようなことが、配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。」という設問です。ＤＶには身体的、精神的、社会的、経済的及び性的の５種類あると言われていますが、いずれも「思う」が「思わない」を大差で上回っております。そのうち、社会的の「携帯電話、メール、手紙などを勝手に見る」は「思う」が７３．６％と他の項目と比較してやや低い割合になっております。「ＤＶの内容を暴力と思う市民の割合」を統計の項目にしていますが、８６．９％と前回調査から微増しました。この数値は、身体的の「平手で打つ」、精神的の「大声でどなる」、社会的の「相手の交友関係や電話を必要以上に監視する」、経済的の「家に生活費を入れない」、性的の「相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」の５つの暴力における平均値となります。

続いて、問１０「次の①～⑭のようなことが、配偶者やパートナー、交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。」という設問です。「平手で打つ」は「した」が２．０％、「された」が３．４％、「大声でどなる」は「した」が１３．８％、「された」が１８．１％、「何を言っても無視し続ける」は「した」が４．５％、「された」が９．７％、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性がない」「稼ぎが悪い」などと言う」は「した」が２．１％、「された」が６．４％、「携帯電話、メール、手紙などを勝手にみる」は「した」が２．７％、「された」が４．８％と「した」、「された」ともに高い割合になっております。また、「ＤＶ行為をされたことのある市民の割合」を統計の項目にしていますが、５．７％と前回調査から微減しました。この数値は、先程と同じ５つの項目における「された」の平均値となります。

続いて、問１１「配偶者やパートナー、交際相手からの暴力について、相談できる場所があることを知っていますか。」という設問です。「知っている」が５６．４％、「知らない」が４０．６％となっております。「ＤＶの相談ができる窓口をどこか一つでも知っている市民の割合」をプランの指標としておりますが、５６．４％と前回調査から下がって、令和５年度目標にも達しませんでした。続いて、問１１－１「問１１で「１　知っている」と回答した方のみにうかがいます。それは、次のどの窓口や機関ですか。」という設問です。「警察」が６５．７％と最も高くて、次いで「平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」」が５１．３％で続いております。

続いて、問１２「「ＤＶ相談窓口のご案内」カードを知っていますか。」という設問です。「見たことがある」が３０．６％、「聞いたことがある」が５．７％、「もらったことがある」１．７％となっておりますが、「知らない」が６１．４％と６割を超えております。

続いて、セクシュアルマイノリティの設問です。問１３「セクシュアルマイノリティという言葉を知っていましたか。」という設問です。「言葉も意味も知っていた」が６１．５％、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」が１８．２％、「知らなかった」が１８．１％となっております。続いて、問１４「今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことはありますか。」という設問です。「はい」が３．４％、「いいえ」が９４．４％となっております。

続いて、問１５「平塚市では、今年４月１日から「平塚市パートナーシップ宣誓制度」を開始しましたが、知っていましたか。」という設問です。「知っている」が９．８％、「知らない」が８８．２％となっております。

続いて最後の設問になります。問１６「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、どのような影響がありましたか。」という設問です。「身体的な健康」は「変化なし」が最も高く、次いで「悪くなった」、「友人・知人との交友関係」は「変化なし」が最も高く、次いで「悪くなった」、「精神的に不安定になってイライラすること」は「変化なし」が最も高く、次いで「増えた」、「生活に対する不安」は「増えた」が最も高く、次いで「変化なし」、「家計収入」は「変化なし」が最も高く、次いで「減った」、「自分の収入」は「変化なし」が最も高く、次いで「該当なし」、「家事や育児、介護の負担」は「該当なし」が最も高く、次いで「変化なし」、「家庭内のけんかや言い争い」は「変化なし」が最も高く、次いで「該当なし」、「親族との付き合い」は「減った」が最も高く、次いで「変化なし」となっております。続いて、有職者のみの設問です。「職場環境」

は「変化なし」が最も高く、次いで「悪くなった」、「就業時間」は「変化なし」が最も高く、次いで「減った」、「在宅勤務やテレワーク」は「該当なし」が最も高く、次いで「変化なし」、「残業」は「変化なし」が最も高く、次いで「該当なし」となっております。続いて、学生のみの設問です。「学校の授業や部活動、行事など」は「悪くなった」が最も高く、次いで「変化なし」となっております。

問１６までの説明は以上となりますが、１点補足事項があります。１２ページの問１１の指標となっている「ＤＶの相談ができる窓口をどこか一つでも知っている市民の割合」についてです。前回調査は、「交際相手等からの暴力について相談できる場所として、次の窓口や機関があることを知っていますか。」という設問に対して、選択肢に窓口や機関の名称が羅列してあり、一番下に「相談できる場所を知らない」という設問でした。ですので、何らかの知っている名称があれば選択できる形式になっているので、今回のように「知っている」または「知らない」の２択のみの設問と比べると、前回調査の設問形式の方が、「知っている」の数値が必然的に上がるので、比較は参考となります。以上です。

（会長）問１６まで事務局から説明がありましたが、御意見または感想などがありましたらお願いします。

（会長）問１１－１に記載のある「平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」」ですが、相談件数は増えているのでしょうか。

（事務局）相談方法は、電話と対面の２通りありまして、合わせて年間７００件程度の相談があります。令和２年度、３年度と比較すると相談件数は若干減っております。コロナが流行してから国が様々な相談窓口を積極的に開設して、そちらに相談する方が増えたのが一因と考えられます。ただし、ＤＶの相談件数に限ると年々増えております。

（委員）選択肢に、「平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」」と「市役所」の２つある意図はなんでしょうか。

（事務局）「市役所」には、福祉部で開設している様々な窓口も含まれています。一方で、「平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」」は対象を女性に限定したものになります。当窓口の認知状況を把握するために、選択肢を分けております。

（委員）問１２のカードはいつから、トイレ等に設置しているのでしょうか。

（事務局）正確な年数はすぐにお答えができませんが、１０年以上は設置していると思われます。

（委員）１０年以上設置していて、「知らない」が６割以上もいらっしゃいますが、公共施設のトイレ以外にも設置場所について検討はされているのでしょうか。

（事務局）市内にある大型の商業施設のトイレ等も検討はしましたが、カードの管理や補充など施設管理者の負担が大きく交渉は難航しています。また、コロナが流行してから、配架自体に難色を示されることもあります。

（委員）男性用トイレにもカードケースを設置しているのでしょうか。

（事務局）同様に、男性用のＤＶ相談の御案内カードのケースを設置しています。

（委員）「もらったことがある」が１．７％いらっしゃいますが、以前配布したことがあるのでしょうか。

（事務局）啓発事業で配布したこともありますし、トイレに設置してあるケースからカードを持っていかれたということも考えられます。

（会長）問１５のパートナーシップ宣誓制度について、「知っている」が９．８％と思ったより認知度が高い印象です。

（事務局）宣誓制度を開始する際に、記者発表をした他、何社か新聞の記事にも掲載していただきました。現在までに３組宣誓していただきましたが、顔出しでの取材は断られてしまいました。効果的な周知方法についてはこれからも検討していきます。

（委員）問１４の自分の身体や心の性に悩んだことについて、「はい」が３．４％いらっしゃいます。だいぶ、セクシュアルマイノリティについて受け入られる社会になってきましたが、もっと広く

理解が進めばいいと思います。
（会長）問１６のコロナの影響についてですが、「変化なし」の割合が思ったより高い印象です。
（事務局）コロナが世界的に流行してから、早や３年が経とうとしています。良くも悪くもコロナに慣れてきたというところでしょうか。ただ、「変化なし」を除いて、「良くなった」または「悪くなった」、「増えた」または「減った」の２択のみに焦点を当てると、例えば「身体的な健康」は「悪くなった」が１８．７％に対して、「良くなった」は３．７％と、どの項目も悪い状況になったと回答している割合の方が高くなっております。

（２）令和４年度男女共同参画に関する市民意識調査のクロス集計について【資料２，３】
（会長）それでは、議題２「令和４年度男女共同参画に関する市民意識調査のクロス集計について」、事務局から説明をお願いします。
（事務局）それでは、資料２と３をお手元にお出しください。改めまして、クロス集計とは、２つ以上の回答内容をかけ合わせて、回答者の属性毎にデータを集計するものです。例えば、性別ですと、女性と男性の違いが分かりますし、年代別だと２０歳代や３０歳代の若い世代から、年代が上がるにつれてどの様な傾向があるのか等を把握することができます。あるいは、就業別ですと、正社員・正職員とパート・アルバイトの違いを把握することもできます。
　資料３を御覧ください。回答者の属性について、詳細が記載されています。２ページ目からは、有職者の就業形態、無職者の状況、学生のアルバイトの状況も記載しています。４ページ目からは、既婚者の共働きの状況や、世帯構成、同居している子どもの年齢区分について詳細を記載していますので、参考にしてください。
　続いて、資料２を御覧ください。設問毎にクロス集計の案を一覧にまとめたものです。資料１の結果概要と併せて御覧いただくと、分かりやすいと思います。それでは、クロス集計（案）について、まずは問６まで説明します。問１「７分野における男女の地位・立場について」ですが、①家庭生活は、性別・年代別の他に、未婚者・既婚者の状況について集計したところ、未婚者は「平等」、既婚者は「どちらかと言えば男性優位」がそれぞれ最も高くなっております。続いて、②職場について、就業状況別に集計したところ、正社員・正職員は「どちらかといえば男性優位」、が最も高く、パート・アルバイトは「平等」がそれぞれ最も高くなっております。続いて、問２「「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について」ですが、性別・年代別の他に、未婚者・既婚者の状況について集計したところ、肯定的な考えの割合は未婚者が１８．６％に対して、既婚者は２９．６％と既婚者の方が１１ポイント高くなっております。続いて、問４「生活の中で各活動に費やしている時間について」ですが、「育児・子育て」の時間について、同居している子どもの状況別に集計したところ、未就学児がいる家庭が最も長くなっております。続いて、問６「ワーク・ライフ・バランスの実現について」ですが、就業状況別に集計したところ、契約・派遣社員が実現している割合が最も高くなっております。また、未婚者・既婚者の状況について集計したところ、実現している割合は、未婚者が３９．２％に対して、既婚者は５２．５％と既婚者の方が１３ポイント高くなっております。問６まで説明以上となります。
（会長）クロス集計（案）について、問６まで事務局から説明がありましたが、御意見などがありましたらお願いします。
（委員）問５「行政や企業の支援について」ですが、性別・年代別、就業状況別についてもクロス集計して、どの層にどのようなニーズがあるのか分析してみるとよいと思います。
（会長）同居している子どもの状況別にも集計してみるといいですね。
（委員）問２「「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について」ですが、無職の方の考え方について分析してみると、何か傾向が分かるかもしれません。就業状況別に分析してみるとよいと思います。
（会長）問６「ワーク・ライフ・バランスの実現について」ですが、子どもの有無や、介護・看護の状況によってどの様な傾向があるのか、問４とクロス集計してみると何か傾向が分かるかもしれま

せん。学生の間でもヤングケアラーの話をちらほら聞きますので、介護とワーク・ライフ・バランスの関係については気になるところです。

（会長）続いて、問７から問１６まで事務局から説明をお願いします。

（事務局）それでは、クロス集計（案）について、引き続き問７から説明します。問７「家庭における役割分担の状況について」ですが、①家事は、性別・年代別の他に、世帯構成別と既婚者の共働き世帯について集計します。続いて、②育児・子育ては、同居している子どもの状況別に集計します。問９、問１０のＤＶ行為の認知度と経験については、未婚者・既婚者の状況をそれぞれ集計します。問１１、問１２の相談窓口や相談カードの認知度については、ＤＶをされた経験のある人について集計したところ相談窓口、相談カードの認知度のいずれも全体の認知度よりも高くなっております。続いて、問１５「「平塚市パートナーシップ宣誓制度」の認知度について」ですが、問１４で悩んだ経験のある人の集計をしたところ１２．８％と、全体の認知度９．８％よりも３ポイント高くなっております。問１６まで説明以上です。

（会長）引き続き、問１６まで事務局から説明がありましたが、御意見などがありましたらお願いします。

（会長）クロス集計ではないのですが、同じ内容の設問は経年比較するのでしょうか。

（事務局）経年比較します。その他にも国が同じ時期に男女共同参画に関する調査を実施しているので、結果が公表されるタイミングが合えばそれとも比較する予定です。

（委員）問７「家庭における役割分担の状況について」ですが、②育児・子育ては、世帯構成別のクロス集計も必要だと思われます。

（会長）「家族で交代・分担」と回答した人を世帯構成別にクロス集計してみるのはいいと思います。

（会長）調査結果の報告書作成から次期プラン策定までの流れについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局）まずは、今回の会議でいただいた意見を基にクロス集計などを行い、報告書を完成させます。その後、内部で副市長報告などをして、市ホームページで公表します。次回の協議会では、報告書を基に、本市の男女共同参画の推進状況を確認して、次期プラン策定に向けて、課題や強化していく施策について協議していただく予定です。

（３）令和４年度イクボスプロジェクトについて【資料４】

（会長）それでは、議題３「令和４年度イクボスプロジェクトについて」、事務局から説明をお願いします。

（事務局）それでは、お手元に資料４を御用意ください。資料の内容に入る前に、当該プロジェクトの開催趣旨、実施に至るまでの経緯を改めて簡単に説明します。当プロジェクトの開催趣旨としては、男女共同参画社会の実現に向け、「イクボス」の認知度を高め、イクボスが増えれば組織が変わり、平塚のまち全体が変わることを認識させ、事業所の働き方改革の推進につなげることを目的に実施する事業です。「イクボス」の考え方、取組を広く周知して、事業所にイクボスを増やすことで女性が能力を最大限発揮して活躍することができ、ひいては誰もが働きやすい職場環境づくりが推進されるよう、講演会の開催を企画しました。

実施概要ですが、将来予測が困難な時代において企業が持続可能な発展をしていくためには、女性をはじめとする多様な人材の活用が欠かせない中、「組織のリーダーは男性が向いている」などのような、性別でよるアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が女性活躍を阻む要因の１つとして考えられていることから、テーマを「一人ひとりの意識改革で、女性が能力を発揮できる職場の実現へ」とした上で、具体の講演会のテーマをアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）とした事務局案を提案して、前回の協議会で委員の皆様に御了承いただいたところです。実施方法は、昨年に続いて今年度もオンライン開催での実施です。配信期間は、１１月１１日（金）午前９時から１２月９日（金）午前９時までの約１ヶ月間です。あらかじめ収録した動画をYouTube上にアップして、イクボスプロジェクトのページにリンクを貼ることで、どな

たでも御覧いただけるようにしました。
　続いて、講演会の内容ですが、講演の構成として、まず最初の導入は事前に実施したイクボス宣言登録企業へのアンケートの回答結果について御紹介いただき、アンコンシャス・バイアスとはどういうものか、それがどういった場面で出てくるのか、具体例を交えてお話していただきました。また、自己チェックシート記入や合言葉を職場内で共有するなど具体的な対応策を提示し、まずは自分自身が気付くこと、そして未然に防ぐためには双方向のコミュニケーションが重要であることをお話していただきました。その後、イクボス宣言企業登録制度の概要と今回のプロジェクト実施に賛同いただいたイクボス宣言登録企業の名前をスライドで紹介する、という構成で作成しました。
　昨年度からの改善事項は２点ございます。昨年度の協議会で、より多くの方に視聴していただくためには事前申込制ではなく申込不要としたほうが良いのではないかとの御意見をいただいたことから、期間限定ということで誰でも視聴できる形での動画公開としました。また、講演のフォローアップとして、視聴後のアンケートの中で講師への疑問・質問を募集し、後日講師に書面で回答をいただくことでより理解を深める機会を設けることとしました。
　広報については、記載のとおり広報ひらつか、市ホームページ、市ホームページ内のひらつか労働ニュース、市ＬＩＮＥ，県ホームページ、県メールマガジンに掲載しました。また、各公民館にポスター及びチラシを配架し、周知に努めています。
　続いて、視聴状況ですが１１月３０日時点で１７８回となっており、徐々に視聴回数は伸びている印象です。一方、視聴後アンケートが少ない状況が続いており、１１月３０日時点で４件にとどまっています。先ほど申し上げたように、今回は視聴後アンケートの中でアフターフォローとして講師への質問枠を設けたのですが、アンケート提出への動機付けまでには至っていないようです。
　これまでのアンケートの回答内容ですが、講演の内容について「参考になった」、アンコンシャス・バイアスについて「理解できた」と全員が回答しています。また、具体的にどのような点が参考になったかについては「具体的な話、経験談が多かったので、今後そう言った場面に遭遇した時に、どのように対応すべきかが参考になった。」との感想をいただいています。動画を御覧になった委員の皆様におかれましても、ぜひ感想をいただければと思います。
　最後に、イクボスグッズについてですが、前回の協議会で様々なご意見を頂戴しましたが、今年度はマルチポーチということで１００個作製し、無事納品されましたので、本日机上に配布しております。しっかりした素材で作られており、汎用性もございますので、お使いいただければと思います。また、このグッズの配布先につきましても、ぜひ会議等で人の集まる場面がありましたら、イクボスパンフレットと一緒にお配りしていただけたらと思います。説明以上となります。
（会長）今年度のイクボスグッズ、マルチポーチの在庫はどれくらいあるのでしょうか。
（事務局）まだ９０個程度あります。委員の皆様にも配布の御協力をお願いしたいところです。
（会長）イクボスプロジェクトの講演動画、昨日の時点で１７８回というのは、順調のように思えるのですがいかがでしょうか。
（事務局）公開してからの同日数で数えると昨年度は１４７回なので、今のところ昨年度より多く視聴していただいております。
（委員）講師の話す速度は、初めゆっくりに感じましたが、内容を理解しながら聞くとなるとちょうど良かったです。ただ、携帯電話で視聴すると、パワーポイントの資料が見づらかったです。職場のみならず、一般的な人間関係においてもヒントとなる内容で、自分自身を振り返ってみる良い機会だったと思います。ただ、アンケートのページに飛ぶ方法が分からず、回答はできませんでした。
（委員）我々の団体では、既に視聴したメンバーもおりますが、テーマが「アンコンシャス・バイアス」のみならず「無意識の思い込み」という副題も併記したのが良かったと思います。確かに携帯電

話だとグラフが多少見づらかったですが、内容は理解できました。アンケートについては、まだ４件しか回答がないということで、視聴回数の割に少ないと感じました。ただ、YouTube からアンケートのページに飛ぶ方法として、これ以上分かりやすい方法は難しいと思います。講演について、周知した方々に、アンケート回答についても再度周知する必要があるかもしれませんね。

（事務局）イクボス登録企業の方には、再度アンケートの回答について周知する予定です。

（委員）アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているもので、それ自体は悪いことではないということ、ただし相手のモチベーションを下げてしまうような言動が良くないということで、従業員同士が気軽に話し合える職場環境が大事であるということを改めて感じました。管理職を長年やっていると、つい「こうあるべき」とか「こうであろう」という思い込みで仕事を進めていましたが、今一度気を付けようと思いました。ただ、女性が働きやすい職場として、時短勤務の方の仕事をカバーするための人員配置については課題が残ります。

（委員）講師の方の話が聞きやすくて内容についても理解できました。セルフチェックをする場面が２回あり、講師が一方的に話すだけではなかったので、視聴する側も飽きがこなくて良かったと思います。

（委員）講師の方の口調が淡々としてやや平坦な印象を受けましたが、内容は分かりやすかったです。携帯電話で視聴したのですが、私もアンケートページへの飛び方が分かりませんでした。講演の中であったセルフチェックは、私もいくつか該当していて、アンコンシャス・バイアスを持っていることに気付かされました。普段の生活の中でも家庭内などでそういう言動をしていないか意識しようと思いました。企業の方達は、視聴した後に、振り返りをするための勉強会の様な場を設ければ、より理解が深まるのではと思いました。

（会長）講師の方が御自身の体験談を話されるなど、内容は面白かったです。アンコンシャス・バイアスの略称として「アンコン」という言葉を紹介していましたが、「セクハラ」、「モラハラ」などの様に流行して、気軽に職場内で使えるような単語になれば、広く認知されていくと思います。私も年々、学生とのジェネレーションギャップが大きくなっていることを感じますが、無意識の思い込みで相手の士気を下げるような言動をしていないか気を付けて行きたいと思いました。

３　事務連絡

４　開会

（事務局）それでは、以上をもちまして、第６回ひらつか男女共同参画推進協議会を終了いたします。長時間どうもありがとうございました。

以　上